

「第2回 祥明大 熊本県立大学学術フォーラム」報告

2009年7月1日、熊本県立大学中ホールにて、第2回 祥明大 熊本県立大学学術フォーラムを開催しました。これは、前年の9月5日に大韓民国祥明大 天安キャンパスで開催された第1回学術フォーラム（次第と内容は前号に掲載）続くもので、今回は「ことばと文学ー境界を越えてー」をテーマに、ことばを研究することに意義と文学研究の国際化の可能性について、次の4名の研究発表とフロアを交えた討議が行われました。

- 梁 東国 （祥明大 熊本） 「萩原朔太郎と韓国」
具 顯禎 （祥明大 熊本） 「韓国語における条件標識の拡大現象に関する文法化からの分析」
清水啓子 （熊本県立大学） 「日本語における主観性」
水尾文字 （熊本県立大学） 「母娘関係の変容ー現代女性小説にみる戦後の英国社会」
- 韓国語通訳 田 峻哲 （熊本韓国語教室代表講師）
司会 鈴木 一 （熊本県立大学）

当日は学外の一般参加者と学生・教員合わせて200名を超える参加者を得て、盛会のうちに終わることができました。次のページからの4本の報告は、当日の資料をもとに各発表者にまとめていただいたものです。

